

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「観光立島 佐渡」計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

佐渡市

3 地域再生計画の区域

佐渡市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

佐渡市は、離島という地理的特性もあり、豊かな自然と祭りや伝統芸能、工芸品、食、街並みなど多くの文化が現在も残されている。

自然豊かな大地は、世界文化遺産登録を目指す佐渡金銀山をつくり、その金銀山が産業を生み、労働者の増加に伴い農業や交易が盛んになり、様々な文化を発展させた。まさに、自然が「まち・ひと・しごと」を創生していた島である。

その他にも、日本で唯一野生のトキが生息する豊かな自然環境をも有しており、平成27年7月に策定した「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「佐渡市総合戦略」という。）における基本コンセプト「歴史と文化が薫り 自然と人が共生できる美しい島」はまさに佐渡島を象徴するフレーズである。

一方、観光・交流面に着目すると、佐渡島への観光客は平成3年の123万人をピークに、平成26年には約50万人まで減少している。



(出典：『新潟県・佐渡観光客入込状況』及び『佐渡観光アンケート調査報告書』)

4-2 地域の課題

減少を加速させる主な要因として、近年ニーズが高まっている外国人や個人（小グループ）観光客への観光動態の変化に対応できていないことが挙げられる。平成3年には本市の観光客の概ね30パーセント程度を占めていた団体での観光が、近年では10パーセント前半で推移している。しかし、地域の旬の食材の提供や地域独特の調理法による提供など佐渡市の“売り”を観光資源として確立するなどの戦略やエンドユーザーに直接訴えかけるPR活動などが不十分であった。

4-3 目標

現在、佐渡市を訪れる外国人観光客のうち、多くを占めるのが中国、台湾であり、来訪ルートとしては成田空港経由が多いが、上海又はハルビンからの新潟空港の利用もある。中国、台湾の両地域に向けたアプローチとしては、企画募集型を取り扱う海外の旅行エージェント等が企画する商談会に積極的に参加し、相手国の文化や人間性をより理解するよう努める。さらに、海外旅行エージェントや航空会社との新たな人脈づくり等により、頻繁な情報共有を行うことが可能となり、相手国の顧客ニーズを捉えるとともにニーズにあった佐渡市の魅力を発信することで、更なる誘客増を目指す。

次に、欧米からの観光客であるが、佐渡市への来訪ルートとしては、成田空港経由が大勢を占めると考えられる。

観光庁の訪日外国人調査によれば、欧米からの観光客はアジアからの観光客に比較し、日本酒や歌舞伎・演劇・音楽等の舞台鑑賞、歴史・伝統文化体験及び日常生活体験に期待をしている。

よって、欧米からの観光客に向けたアプローチとして、佐渡市には酒蔵を見学でき、能などの芸能及び工芸品といった伝統を体験できる観光資源が既に存在するため、これまでほとんど佐渡島に来ていなかった欧米人向けにこの観光資源を直接インターネット配信等によりアピールすることで、追加投資を抑え、かつ、効果的に観光客を誘致することができる。

また、佐渡市は、金銀山で栄えた歴史や、離島であるために日本各地から流入された古来の文化をそのまま残す豊富な観光資源を持っており、これらを活用することにより、欧米を始め東アジア全体からも外国人観光客の増加を目指す。

あわせて、二次交通の整備として、新潟空港から新潟港までの間は、二次交通が整備されていないことから「タクシー」又は「バスの乗継」が必要となり、外国人観光客にとって煩雑さの面から負担となっている。負担

軽減のため、新潟空港と新潟港ターミナル間を安い運賃かつ短時間で結ぶこととする。

他方、佐渡市の人口は、平成 16 年 3 月の島内 10 市町村の合併当時の約 7 万人から、現在では約 58,000 人に減少しており、毎年約 1,000 人ずつ人口が減少しているところである。

佐渡市総合戦略では、人口減少対策として、若年層の流出を中心とする社会減への対策を重要事項としているが、具体的には島内企業の体質強化や一次産業の振興と観光振興を中心とした「元気な産業と安定した雇用の創出」や「観光交流人口の拡大」を図ることとしている。

本事業の確実な推進が、佐渡市の地方創生の実現に資するものとなる。

【数値目標】

事業	「観光立島 佐渡」事業	年月
KPI	外国人観光客数（人）	
申請時	1,510	H28.3
初年度	2,000	H29.3
2年目	2,750	H30.3
3年目	4,000	H31.3
4年目	5,000	H32.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する

特例（内閣府）：【A2007】

- (1) 事業名：「観光立島 佐渡」事業（海外へのセールス・SNS 等を活用した PR・ホスピタリティの向上等・新潟空港を活用した佐渡インバウンド受入対策・世界文化遺産登録による資産の保存・活用）

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

佐渡市は、離島という地理的特性もあり、豊かな自然と祭りや伝統芸能、工芸品、食、街並みなど多くの文化が現在も残されている。

自然豊かな大地は、世界文化遺産登録を目指す佐渡金銀山をつくり、その金銀山が産業を生み、労働者の増加に伴い農業や交易が盛んになり、様々な文化を発展させた。まさに、自然が「まち・ひと・しごと」を創生していた島である。

その他にも、日本で唯一野生のトキが生息する豊かな自然環境をも有しており、平成27年7月に策定した佐渡市総合戦略における基本コンセプト「歴史と文化が薫り 自然と人が共生できる美しい島」はまさに佐渡島を象徴するフレーズである。

一方、観光・交流面に着目すると、佐渡島への観光客は平成3年の123万人をピークに、平成26年には約50万人まで減少している。(※前記4のグラフ参照)

減少が加速している主な要因として、団体観光対応を主体に進めてきたが、平成3年には概ね30パーセント程度あった団体での観光が、近年では10パーセント前半で推移するなど、観光動態の変化に対応し切れなかったことが挙げられる。

また、近年ニーズが高まっている外国人や個人（小グループ）観光客への対応について、地域の旬の食材の提供や地域独特の調理法による提供など佐渡市の“売り”を観光資源として確立するなどの戦略やエンドユーザーに直接訴えかけるPR活動などが不十分であったことによる。

現在、佐渡市を訪れる外国人観光客のうち、多くを占めるのが中国、台湾であり、来訪ルートとしては成田空港経由が多いが、上海又はハルビンからの新潟空港利用もある。中国、台湾の両地域に向けたアプローチとしては、企画募集型を取り扱う海外の旅行エージェント等が企画する商談会に積極的に参加し、相手国の文化や人間性をより理解するよう努める。さらに、海外旅行エージェントや航空会社との新たな人脈づくり等により、頻繁な情報共有を行うことが可能となり、相手国の顧客ニーズを捉えるとともにニーズにあった佐渡市の魅力を発信することで、更なる誘客増を目指す。

次に、欧米からの観光客であるが、佐渡市への来訪ルートとしては、成田空港経由が大勢を占めると考えられる。

観光庁の訪日外国人調査によれば、欧米からの観光客はアジアからの観光客に比較し、日本酒や歌舞伎・演劇・音楽等の舞台鑑賞、歴史・伝統文化体験及び日常生活体験に期待をしている。

よって、欧米からの観光客に向けたアプローチとして、佐渡市には酒蔵（※参考1）を見学でき、能（※参考2）などの芸能及び工芸品といった伝統を体験できる観光資源（※参考3）が既に存在するため、これまでほとんど佐渡島に来ていなかった欧米人向けに資源を直接ネット配信等を通じてアピールすることで、追加投資を抑え、かつ、効果的に観光客を誘致することができる。

また、佐渡市は、金銀山で栄えた歴史や、離島であるために日本各地から流入された古来の文化をそのまま残す豊富な観光資源を持っており、これらをアピールすることにより、欧米を始め東アジア全体からも外国人観光客の増加を目指す。

※参考1

酒造会社	代表的な銘柄	種類	特徴等
尾畑酒造	真野鶴 学校蔵	大吟醸 純米吟醸 吟醸 純米吟醸 本醸造 純米酒	エールフランス航空の機内酒
加藤酒造	金鶴	大吟醸 純米吟醸 吟醸 純米吟醸 本醸造 純米酒	米から手掛ける酒造り
佐渡銘醸	天領盃	大吟醸 純米吟醸 吟醸 純米吟醸 本醸造 純米酒	国際酒審査会で第1位を受賞
逸見酒造	真稜 至	大吟醸 純米吟醸 純米吟醸 本醸造	JA との連携による良質な酒米の高精白
北雪酒造	北雪 NOBU	大吟醸 純米吟醸 純米吟醸 本醸造 純米酒 梅酒 米焼酎	レストラン「NOBU」に日本酒納入
おけさ酒造	柿わいん 柿酎	柿ワイン 柿焼酎	おけさ柿の果汁100%醸造

※参考2

主な能の演目
道成寺 経政 羽衣 熊野 猩々 山姥 鶺鴒 阿漕 胡蝶 鶴 卷絹 井筒 舟弁慶

※参考3

伝統体験	内容
能・仕舞体験	日本に現存する能舞台の30%が存在する当地で神社境内の能舞台を活用しての能体験
たらい舟乗船体験	透明度の高い佐渡市の海ならではの伝統漁具であるたらい舟の乗船体験
無名異焼き体験	重要無形文化財の焼き物体験
裂き織体験	地域伝統の裂き織でエコと歴史を学ぶ体験
和太鼓体験	年間の1/3を海外で活動している太鼓集団による和太鼓体験

あわせて、二次交通の整備として、新潟空港から新潟港までの間は、二次交通が整備されていないことから「タクシー」又は「バスの乗継」が必要となり、外国人観光客にとって煩雑さの面から負担となっている。負担軽減のため、新潟空港と新潟港ターミナル間を安い運賃かつ短時間で結ぶこととする。

他方、佐渡市の人口は、平成16年3月の合併当時の約7万人から、現在では約58,000人に減少しており、毎年約1,000人ずつ人口が減少しているところである。

佐渡市総合戦略では、人口減少対策として、若年層の流出を中心とする社会減への対策を重要事項としているが、具体的には島内企業の体質強化や一次産業の振興と観光振興を中心とした「元気な産業と安定した雇用の創出」や「観光交流人口の拡大」を図ることとしている。

本事業の確実な推進が、佐渡市の地方創生の実現に資するものとなる。

(事業の内容)

【外国人旅行客誘致】

①海外へのセールス

外国人団体観光客の増加を目的に、中国、台湾等東アジアで行われる商談会に積極的に参加する。

商談会に参加することで、佐渡市の魅力のPRはもとより、相手国の文化や人間性も理解することで、相手国の顧客ニーズが掌握できるほか、商談会に参加した海外旅行エージェントや旅行会社と人脈を形成することにより、頻繁な情報共有を行うことが可能となり、

新たなモデルツアーの造成等により、東アジアからの団体客の増加につながるものである。

また、海外旅行エージェントや航空会社に対し、佐渡市のトップセールスを実施する。団体のトップ同士が直接会談することで、佐渡島への誘客促進に向けスピーディーな交渉を行うことができる。

② SNS等を活用したPR

欧米個人観光客の増加を目的に、SNS等を活用したPR活動を積極的に行う。

旅行会社を通じ、平均視聴数が10万回以上の発信力のあるインターネット動画共有サービス利用者に佐渡市の歴史、文化、自然の魅力を欧米人の視点で発信してもらうことで、欧米個人旅行者の増加が実現できる。

また、文化や趣味趣向を扱った欧米向けの雑誌等のメディアを招聘し、佐渡市の文化やアクティビティを体験した上で、日本の玄関口である主要空港から佐渡市までの交通情報と併せて情報発信を図ってもらうことにより、欧米個人観光客の佐渡島への体験型観光の増加を図る。

さらに、そこで得られた改善点等の指摘事項を今後に生かし、クオリティの維持と向上につなげていく。

③ ホスピタリティの向上等

もう一度訪れたいと思う環境づくりに向け、地域の人と触れ合える機会を増やすための地域限定のガイド養成を進め、外国人旅行者が快適な旅を過ごせるための案内看板設置又はWi-Fi環境の整備を行い、ホスピタリティの向上を目指す。

また、新潟市から佐渡市への観光ルートを確立し、外国人観光客の来訪の促進を図るため、中国、台湾等の東アジアをターゲットに、新潟空港を利用し、佐渡市で宿泊するツアーを造成した旅行業者に対して、一人当たり1泊1,000円のインセンティブを付与する事業（以下「インセンティブ事業」という。）を実施する。

【新潟空港を活用した佐渡インバウンド受入対策】

現在運休している佐渡新潟航空路の早期再開が望まれることから、佐渡市も構成員となっている佐渡空港拡張計画を促進する協議会が主体となり、訪日外国人旅行者が新潟空港から新潟港ターミナルまでタ

タクシーを利用した場合、一台当たり2千円のキャッシュバックを佐渡市内で行う。

また、利用者に対しては、アンケートを実施し、空路を活用した旅行動態を調査する。

[実施手続の流れ]

受付場所：両津港・小木港の観光窓口

- 1 必要な書類の提示
 - ① 新潟空港を利用した航空券
 - ② パスポート
 - ③ タクシーのレシート（合計2千円以上）
- 2 請求書及びアンケートへの記載
- 3 2千円のキャッシュバック
- 4 受領の署名で終了

→各年度の事業の内容

海外へのセールス

- 初年度) 団体観光客の増加を目的に、中国、台湾等東アジアで行われる商談会に参加し、海外旅行エージェントや航空会社に対し、トップセールスを実施する。
- 2年目) 団体観光客の増加を目的に、中国、台湾等東アジアで行われる商談会に参加し、海外旅行エージェントや航空会社に対し、トップセールスを実施する。
- 3年目) 団体観光客の増加を目的に、中国、台湾等東アジアで行われる商談会に参加する。
- 4年目) 団体観光客の増加を目的に、中国、台湾等東アジアで行われる商談会に参加する。

SNS等を活用したPR

初年度) 欧米個人観光客の増加を目的に、旅行会社を通じ、平均視聴数が10万回以上の発信力のあるインターネット動画共有サービス利用者に佐渡市の歴史、文化、自然の魅力を欧米人の視点で発信してもらう。

また、欧米個人観光客向けのメディアを招聘し、佐渡島を体験した上で、情報発信を図ってもらう。

2年目) 前年とは異なる発信力のあるインターネット動画共有サービス利用者に情報発信してもらう。また、欧米個人観光客向

けのメディアを招聘する。

3年目) これまでの実績を踏まえ、引き続き情報発信をする。

4年目) これまでの実績を踏まえ、引き続き情報発信をする。

ホスピタリティの向上等

初年度) 地域限定のガイド養成及び案内看板設置を実施し、次年度に向けたWi-Fi環境整備のための検討を開始する。

また、インセンティブ事業を実施する。

2年目) 地域限定のガイド養成及び案内看板設置を実施し、Wi-Fi環境整備を行う。

また、前年までの実績を踏まえ、インセンティブ事業を実施する。

3年目) 地域限定のガイド養成及び案内看板設置を実施し、前年の進捗状況に応じたWi-Fi環境整備を進める。

また、前年までの実績を踏まえ、インセンティブ事業を実施する。

4年目) 地域限定のガイド養成を実施する。

また、前年までの実績を踏まえ、インセンティブ事業を実施する。

新潟空港を活用した佐渡インバウンド受入対策

初年度) 訪日外国人旅行者が、新潟空港から新潟港ターミナルまでタクシーを利用した場合、一台当たり2千円のキャッシュバックを佐渡市で行う。

また、利用者に対し、アンケートを実施することにより、空路を活用した旅行動態を調査し、次年以降の改善策について検討する。

2年目) 初年に実施するアンケートによる旅行動態を踏まえ、新潟空港から新潟港までのアクセスの更なる改善に向け、前年の実施事業のブラッシュアップ又は前年から検討した新たな改善策（以下これらを「改善策」という。）を実施し、国内外の旅行者を問わず佐渡市への誘客を増加させる。

3年目) 前年までの実績を踏まえ、引き続き新潟空港から新潟港までの交通手段の改善策を実施し、佐渡市への誘客を増加させる。

4年目) 前年までの実績を踏まえ、引き続き新潟空港から新潟港ま

での交通手段の改善策を実施し、佐渡市への誘客を増加させる。

【世界文化遺産登録による資産の保存・活用】

①世界基準の観光資源の創出と来訪者対策の充実化

世界遺産暫定リストに記載され世界遺産への登録を目指す佐渡金銀山は、金を生産した社会の文化的伝統を示す建造物や遺跡が、江戸時代に描かれた絵巻の様子そのままに現地でも実見できる、世界的にも大変貴重な文化遺産である。

今後、世界遺産登録後の増加が予測されるインバウンド対策として、現地への誘導を目的とする「佐渡金銀山ガイド施設(仮称)」の設置、多言語化に対応した映像の提供配布などを進める。また、構成資産内においては、モデルコースに連動した誘導・案内看板の設置などセルフガイドの仕組みも充実させた整備を行う予定である。

②観光資源としての文化遺産の保存と活用

観光資源でもある世界遺産は、その本質的価値の保護措置を図ることが必要であるが、近年の動向として、こうした文化遺産を核とした地域づくりや観光産業への活用など、多様な形で文化財を積極的に地域活性化に活かす動きが加速している。

そのためには、資産の価値を維持するための保存事業と公開や活用を目的とする整備事業を行い、さらには、佐渡金銀山を「地域の宝」として地域住民の郷土愛醸成にもつながる事業も進めていく。

本事業は、世界遺産を核とした佐渡市の地域振興に対し将来にわたり資するものである。

→各年度の事業の内容

佐渡金銀山保存・活用・受入態勢等整備事業

- 3年目) (仮称) 佐渡金銀山ガイド施設整備事業
相川地区左門町旧鉱山住宅修繕工事
佐渡金銀山遺跡環境美化事業 等
- 4年目) 佐渡金銀山遺跡環境美化事業 等

(4) 地方版総合戦略における位置付け

「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、基本目標のひとつに「世界的3資産を中心とした島の魅力とおもてなしの心で観光・交流を促進する。」を掲げている。

また、同じく佐渡市の総合戦略においては、人口減少対策として、若年層の流出を中心とする社会減への対策を、最重要の取組と考えており、具体的な対策として、一次産業の振興と観光振興を中心とした「元気な産業と安定した雇用の創出」や「観光交流人口の拡大」を図り、若者の雇用の受皿づくりを進めることとしている。

本事業の実施は、佐渡市の地方創生の実現に寄与するものとなる。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標 (重要業績評価指標 (KPI))

事業	「観光立島 佐渡」事業	年月
KPI	外国人観光客数 (人)	
申請時	1,510	H28.3
初年度	2,000	H29.3
2年目	2,750	H30.3
3年目	4,000	H31.3
4年目	5,000	H32.3

(6) 事業費 (単位：千円)

外国人観光客誘致関係	年度	H30	H31	計
	事業費計		13,563	13,873
区分	旅費	2,400	2,400	4,800
	需用費	2,783	3,093	5,876
	委託料	4,580	4,580	9,160
	負担金補助及び交付金	3,800	3,800	7,600

(単位：千円)

新潟空港を活用した佐渡イ	年度	H30	H31	計
	事業費計		1,497	1,497

ンバウンド受 入対策				
区分	委託料	1,497	1,497	2,994

(単位：千円)

佐渡金銀山保 存整備事業	年度	H30	H31	計
	事業費計	30,571	8,100	38,671
区分	需用費	1,078	1,100	2,178
	備品購入費	22,493	0	22,493
	委託料等	7,000	7,000	14,000

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

「観光立島佐渡」事業	H30	H31	計
製造業	1,000	1,000	2,000
不動産業	100	100	200
計	1,100	1,100	2,200

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

外部有識者会議である「佐渡市地方創生総合戦略策定・推進会議」において、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて、次年度以降の事業手法の改善等を行う。

(評価の時期・内容)

毎年度末に「佐渡市地方創生総合戦略策定・推進会議」において、効果検証を行い、次年度以降の事業実施につなげる。

(公表の方法)

佐渡市ホームページ等により公表を行う。

(9) 事業期間

平成 28 年 8 月～平成 32 年 3 月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

外部有識者会議である「佐渡市地方創生総合戦略策定・推進会議」において、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて、次年度以降の事業手法の改善等を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度末に「佐渡市地方創生総合戦略策定・推進会議」において、効果検証を行い、次年度以降の事業実施につなげる。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

佐渡市ホームページ等により公表を行う。